



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	2014年度 学会巡検報告 小布施・小谷巡検：市川健夫先生を訪ねる（学会記事）（fulltext）
Author(s)	小池,直也
Citation	学芸地理(71): 101-102
Issue Date	2016-02-18
URL	http://hdl.handle.net/2309/145222
Publisher	東京学芸大学地理学会
Rights	

2014年度 学会巡検報告 小布施・小谷巡検 —市川健夫先生を訪ねる—

実施日：2014年6月21日（土）・22日（日）一泊二日

案内者：市川正夫先生（長野県立歴史館勤務，元長野県立高校地理教諭）

内川 淳先生（元内地留学生，元長野県公立小学校教諭）

コース：おぶせミュージアム中島千波館（市川健夫先生と面談） - 小布施町内 - 小谷温泉大元湯山田旅館 - 稗田崩れ（自然災害跡） - 白馬村青鬼集落 - 白馬ジャンプ競技場

2014年度の学会巡検は、2014年6月21日（土）・22日（日）に長野県で行われ、卒業生や学生計16名が参加した。おぶせミュージアム中島千波館にて市川健夫先生と面談する。多くの参加者が市川先生との思い出を振り返り充実した時間を過ごしていた。市川先生も懐かしい同志との再会で話に夢中になっておられた。



写真1 信州の地理を語る市川健夫先生
(上野和彦先生撮影)

小布施町は「栗と北斎の街」として知られる長野県有数の観光地である。近年は、外国人観光客も増加しており休日には町内が観光バスなどで大渋滞する。小布施町は、景観法に基づく「うるおいのある美しいまちづくり条例」を制定しており色調の抑えられた家屋が立ち並ぶ。市川正夫先生から小布施町の歴史や観光化に関してご解説を頂いた。

小布施巡検終了後、一日目の宿となる小谷温泉へ向かった。宿となる山田旅館は江戸時代創業の旅館で登録有形文化財に指定されており、それだけで巡検の対象である。旅館には、温泉の歴史を展示した部屋があり、スキー板などの雪国の道具や山田旅館の宿泊人名簿などの貴重な資料があった。

翌日は、日本三大崩れの一つである稗田崩れ跡を見学に行く。1911年に稗田山北側斜面が崩壊し、土砂が直下の谷を埋めた。崩壊当日は晴天で地震も発生しておらず現在も崩壊発生が決定的要因は未だに明らかにされていない。崖崩れの跡は、現在もはっきりと確認することができ自然災害の恐ろしさを再確認した。この地域一帯は、稗田崩れ以外にも崖崩れが起きており、移動中の車窓からも崖崩れの跡や土砂除けなどを目視することができた。



写真2 稗田山の崖崩れ跡

続いて、白馬村にある青鬼集落へ向かった。青鬼集落は重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、茅葺き屋根をトタンで覆った寄棟の家屋が現存している。表側屋根をカブト造りにして、表側のみ2階建て（一部平屋建て）になった家屋がほとんどである。現在、集落の建物は15棟で10世帯が住んでいる。青鬼集落は

他の白馬村の集落のように、スキー観光客用に改造された民宿はなく、大きな改造もされていない。集落の背後には棚田が広がっており、北アルプスの山容を観察できるそう（巡検日はあいにくの曇り空）。最後に白馬ジャンプ競技場にて解散した。

今年度の学会巡検では、地域を街の景観や歴史などの文化的な側面、自然災害などの自然的側面からみてきた。多様な側面から地域を考察するという地理学のもつ一つの特徴を实践できる巡検であった。多くの人との関わりもあり、地理学のおもしろさを改めて認識させてくれた。僭越ながら、この場を借りて、今回の巡検をまとめて下さった関秀明氏、案内者を引き受けて下さった市川正夫先生、内川淳先生に感謝の意を表したい。

(院47期 小池直也)



写真3 おぶせミュージアム中島千波館にて集合写真

後列右奥が案内者の市川正夫先生（長野県県立博物館勤務・市川健夫先生のご子息）

(上野和彦先生撮影)